

館山ストに250名参加

日刊 勤労千葉

1988.6.23
No. 2842

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七

安房地区労100名の仲間とともに ストライキうちぬく

六月二一日、館山駅はストライキの熱気に埋めつくされた。一七時をまわると、続々と組合員があつまる。実に百五〇名が決起した。
宣伝カーからは、市民へのアピールが開始され、JR当局の組合つぶし、デタラメな分割・民営化の実態が明らかになれば、市民はその訴えにくぎづけになる。

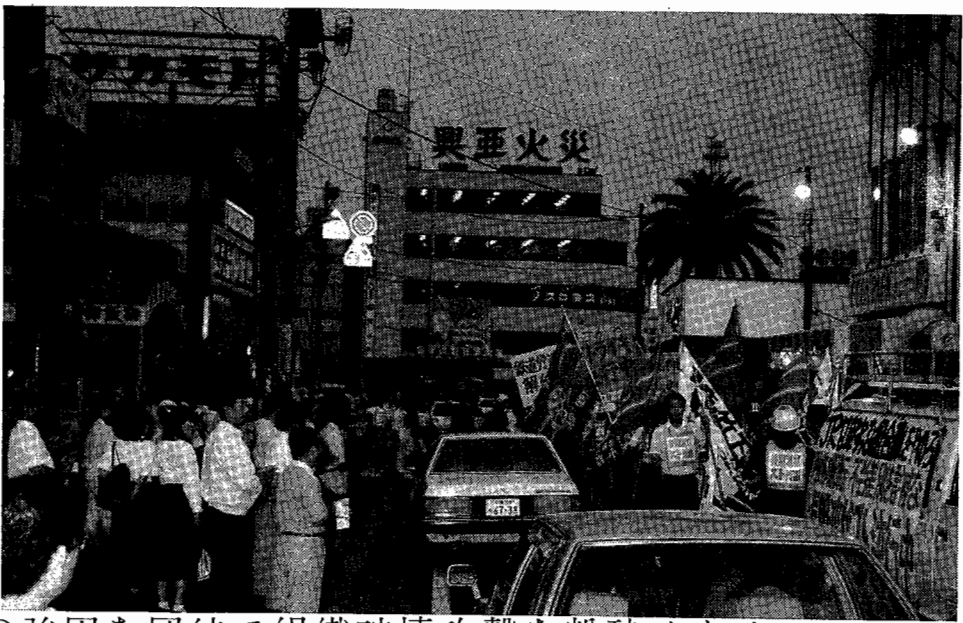
一七時三〇分、いよいよスト突入だ。駅前にあつまった組合員の間を、堂々と胸をはってスト当該者の照岡・梶江両組合員が登場、万雷の拍手で迎えられる。

ストライキに決起した照岡・梶江両組合員は「たたかうからこそ勤労千葉だ」「清算事業団の仲間をとり戻そう」とスト突入を宣言した。

一八時になると、スト支援のためにかけつけてくださった安房地区労のみなさんが宣伝カーのまわりを埋めつくす。一〇〇名の仲間がかけつけてくれた。当局・警察権力はこの迫力の前に一歩も近づくことができない。

地区労を代表して辻田議長がアピールする。「分割・民営化の狙いは、労働者の首切りと組合つぶしにあった」「JRの不当介入を断じて許さない」「勤労千葉のストライキを支援しよう」と発言すると、ひととき大きな拍手がまきおこる。こうしてストライキは打ちぬかれ、同時に、JR当局弾劾のデモがたたきつけられた。

館山駅に強制配転された照岡勝浦支部前副支部長、梶江館山支部組合員が南総協議会のトップを切ってストライキに突入。



安房地区労の仲間が見送るなか市内デモに出発。

地区労の仲間一〇〇名を代表して辻田地区労議長が市民にアピール。デタラメな分割・民営化を激しく弾劾した。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！